

4/
27
(月)

永遠のともしび

出エジプト記二七章

あなたは、イスラエルの人々に命じて、オリーブの実を砕いて採った灯のための純粋な油を、あなたのところへ持って来させなさい。灯を絶えずともすためである。(20)

聖所の中に純金の燭台が置かれていましたが、神はその上で絶えず灯をともしているように命じられました。この灯は主のご臨在の象徴であり、神が常にこの聖所におられるという信仰を目に見える形で表すものでした。私たちの信仰に命を与えるのは、どんなときにも神がここにおられるという臨在信仰です。聖霊の宮とされている私たち信仰者の内には、主なる神が住んでおられます。この神の臨在に対する信仰を失うとき、信仰生活に弛みが生じ、礼拝は形ばかりで命のないものとなってしまいます。聖所における礼拝に命を吹き込むのは、「ここに主はおられる」という主のご臨在への明確な信仰です。私たちの毎週の礼拝は、「この会堂の中心に主はおられます」という信仰に基づいてささげられます。聖なる灯をとすようにして、主を中心にお迎えした礼拝を常にささげたいものです。